

# 新型コロナウイルス関連施設整備工事 (専用病床個室陰圧化空調設備工事)

## 図面リスト

No,	図面名称
M-01	特記仕様書 1
M-02	特記仕様書 2
M-03	特記仕様書 3
M-04	機器表
M-05	既設空調ダクト改修図
M-06	専用病床空調ダクト平面図
M-07	専用病床空調配管平面図
M-08	既設入院室天井伏図 (参考)
M-09	7階東入院棟防災計画平面図 (参考)
M-10	専用病床既設医療ガス及びスプリンクラー配管現況図
M-11	
M-12	
M-13	
M-14	
M-15	

図中、黄塗りの部分は本工事の施工区域を示す。



鶴岡市立荘内病院

製図 照査 特記

製図 平成 年 月 日 工事名

新型コロナウイルス関連施設整備工事  
(専用病床個室陰圧化空調設備工事)

図面番号

縮尺 / 図面名



● 一般共通事項

- 施工区との区分
- 施工図
- 施工範囲
- 塗装

● 空気調和

- ばい煙濃度計
- 煙突
- 煙道
- ダクトの区分
- 長方形ダクトの工法
- 風量測定口
- 防煙ダンパー

○ 暖房

- 配管材料

○ 暖房

- 弁類
- 鋼管用伸縮管継手
- 温度計
- 瞬間流量計
- 積算油量表
- 注油口及び指示ボックス
- 消音内張り
- 保温

○ 電気工事の範囲

- 塗装

● 換気設備

- 準換事項
- 開放形湯沸器用排気フード
- 厨房等多量箇所用排気ダクト
- 厨房用排気フード
- 多量箇所の排気ダクト
- 塗装

○ 排煙設備

- ダクト
- 排煙口の形式
- 排煙口の開放装置
- 排煙風量測定方法

○ 自動制御設備

- 中央監視制御装置
- 計装用配線
- その他

工事区分表による  
設備機器の位置、取り合いなどを検討できる施工図を提出し、監督職員の承認を受ける。  
下記部位に使用する、外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。

○ 屋外 ○ 居室

	外 気 条 件				屋 内 (調 整 目 標)			
	一 般 系 統		系 統		一 般 系 統		仮 設 室 系 統	
	温度 (D B)	湿度 (R H)	温度 (D B)	湿度 (R H)	温度 (D B)	湿度 (R H)	温度 (D B)	湿度 (R H)
夏 季	31.7℃	64.0%	℃	%	26.0℃	— %	28.0℃	— %
冬 季	-3.8℃	73.0%	℃	%	22.0℃	— %	24.0℃	— %

取付箇所は図示による。  
○ 別途 ○ 本工事 (鋼板厚 mm、高さ m以上)  
○ 煙道径300mm以下は鋼板厚3.2mm、300mmを超えるものは4.5mmとする。 ○ 図示による。  
(煙道径400mmを超えるものには、掃除口に緩衝を取り付ける。)

低圧ダクトとする (高圧1及び高圧2の部位は図示による)。  
○ アングルフランジ工法 ○ コーナーボルト工法 (共板フランジ又はスライドオンフランジ)

取付箇所は図示による。取付面は監督職員の指示による。  
イ) 復旧方式 ○ 通隔式 (電気式 (定格入力はDC24V、0.7A以下))  
ロ) 復旧動作 ○ 順送り ○ 同時

イ) 冷温水管 ● 配管用炭素鋼管 (白) ○ 配管用炭素鋼管 (黒)  
ロ) 冷却水管 ○ 配管用炭素鋼管 (白) ○

ハ) 蒸気管 (給気管) ○ 配管用炭素鋼管 (黒) ○  
(還水管) ○ 圧力配管用炭素鋼管 (黒) (Sch40) ○ 配管用炭素鋼管 (黒)

ニ) 油管、油用通気管 (屋外) ○ 配管用炭素鋼管 (白) 溶接 ○  
(屋内ビット、床下) ○ ポリエチレン外層被覆鋼管 (樹脂)

ホ) 膨張管、空気抜き管、膨張タンクよりボイラー等への補給水管  
○ 配管用炭素鋼管 (白) ○

ヘ) 空調用排水管 ○ 配管用炭素鋼管 (白) ● ビニル管 (VP)  
ト) 冷媒管 ○ 断熱材被覆鋼管 (製造者標準品) ○ 鋼管

○ JIS又はJVS K ○ JIS又はJV10K ○ 油用はSUS BAVとする

○ ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。  
○ ペローズ形 ○ スリーブ形

標準仕様書、標準図による他、図示した箇所に取り付ける (配管用は円形、ダクト用円形)。  
図示の箇所に取り付ける。(○ 着脱形 ○ 固定形)  
瞬間流量計はビートル方式とし、止水コック付とする。  
着脱形の流量指示部 (○ 40A用 個、○ 100A用 個、○ 250A用 個) を付属する。  
図示の箇所に取り付ける (熱源機器毎)。  
○ 標準図 (機材7) による。(○ 単独形 共用形 (ローリーアース付))  
○ 図示による

イ) 施工箇所は図示による。  
ロ) 内張りチャンパー類の寸法表示は、外形寸法とする。  
ハ) 吹出口に接続するチャンパーの消音内張りは別図による。

イ) 建物内の空気抜き管の保温は空気抜き弁までとし (空気抜き弁も含む)、仕様は冷温水管の項による。  
ロ) 屋外露出管 (弁、フランジを含む) は、標準仕様書第2編 (表2.3.5 ●3・(ハ)) とし厚さは呼び径25mm以下は50mm、呼び径32mm以上は40mmとする。  
ハ) 外気取り入れダクト及びチャンパーボックスの保温 ● 要 (全熱交換機の給気ダクト含む) ○ 不要  
ニ) 排気ダクトの外壁開放部より1m程度を保温する。(チャンパーボックスを含む)  
ホ) 冷媒管 (断熱被覆鋼管) の保温外装  
屋内露出部 ○ 保温化粧ケース (樹脂製) ○ 外装なし (機械室内)  
屋外 ○ 保温化粧ケース (樹脂製) ○

ヘ) 高圧蒸気管及びヘッダーの保温厚は mmとする。

イ) 地震感知機の配管配線。 ○ 別途 ○ 本工事  
ロ) 防煙ダンパーと運動制御装置の配管配線及び運動制御盤から煙感知器迄の配管配線。 ○ 別途 ○ 本工事  
ハ) 運動制御盤から運動制御装置迄の配管配線。 ○ 別途 ○ 本工事  
屋内露出ダクトの塗装は ○ 行わない。 ○ 行う。  
機械室内露出冷却水配管の塗装は行わない。

【● 空気調和 ○ 冷房 ○ 暖房 設備の当該事項に準ずる。】  
● ダクトの区分 ○ 長方形ダクトの工法 ● 風量測定口 ○ 防煙ダンパー  
● 消音内張り ● 保温 ○ 電気工事の範囲

○ 別途 ○ 本工事  
○ 亜鉛鉄板 ○ ステンレス鋼板 (SUS304) (天井内は図示による)

イ) フード周囲の天幕 (フード面から天井面まで) ○ 取り付ける ○ 取り付けない  
ロ) フードコック ○ 取り付ける ○ 取り付けない  
ハ) 材質 (天幕とも) ○ ステンレス鋼板 (SUS304) ○

下記系統のダクトのシールは標準図 (施工4.7、4.8) のNシール+Aシール+Bシールとし、水抜き管を設ける。  
屋内露出棟ダクトの塗装は ○ 行わない。 ○ 行う

○ 亜鉛鉄板 ○ 普通鋼板 (厚1.6mm以上)  
○ 稼働羽根 (スリット共) ○ 可動パネル ○ ダンパー形  
○ ワイヤー式 ○ 電気式 (遠隔操作機能 ○ 要 ○ 不要)  
建築設備定期検査業務指導書 (財) 日本建築設備安全センター) の排煙風量の検査方法に準ずる。

中央監視制御装置の構成機能は別紙による。  
イ) 屋外・屋内露出の配線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。  
ロ) 天井隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。  
ハ) 使用する電線類は特記がなければEM電線とし、規格は標準仕様書第4編表4.2.12による。(機器、盤類を除く)  
室内温湿度検出器等を2個以上併設する場合は、サーモケースを使用する。

○ 衛生器具設備

- 小便器用節水装置
- 大便器洗浄弁
- 便器洗浄用タンク
- 付属水栓
- 自動水栓
- 大便器耐火カバー
- 注記板

○ 給水設備

- 不凍水栓柱
- 埋設形散水栓
- 弁類
- 給水栓
- 埋設深さ
- 保温
- ステンレス管の継手
- その他

○ 排水設備

- 配管材料
- 満水試験継手
- その他

○ 給湯設備

- 配管材料
- 弁類
- 湯沸器の排気筒
- 保温

○ スプリンクラー設備

- 配管材料
- 屋内消火栓種別
- 屋内消火栓開閉弁
- 地中埋設配管の接合
- 保温

○ 厨房設備

- 厨房機器類
- 付属制御盤

○ ガス設備

- 配管材料
- 都市ガス
- 液化石油ガス

○ 小便器用節水装置 ○ 洗浄水量は4L/回以下とし、使用状況により洗浄水量が制御できるものとする。(※1)  
○ 大便器洗浄弁 ○ 洋風便器の洗浄水量は10.5L/回以下とする。(※1) ○ 不凍結節水弁付とする。  
(※1: グリーン購入法における判断基準)  
○ 便器洗浄用タンク ○ 手洗い無し ○ 手洗い付き  
○ 付属水栓 ○ 固定こま式 (節水こま式) とする。 ○ 押しボタン式 (不凍結節水弁付き)  
○ 自動水栓 電源供給方法 (AC100V ○ 乾電池 ○ 自己給電)  
○ 大便器耐火カバー 設ける (ビット内を除く)  
○ 注記板 対象器具 ( )

○ 量水器 イ) 観メーター ○ 貨与品 ○ 買取り ロ) 子メーター ○ 貨与品 ○ 買取り  
イ) 観メーター用 ○ 水道事業者指定品 ○ 標準図 (機材65)  
ロ) 子メーター用 ○ 標準図 (機材55) ○ 水道事業者指定品

○ 配管材料 イ) 一般配管 ハ) 屋外土中用  
○ ステンレス鋼管 (SUS304) ○ 水道用ポリエチレン二層管 (JIS K 6762)  
○ 塩ビライニング鋼管 (○ VA ○ VB) ○ 塩ビライニング鋼管 (VD)  
○ ポリ粉体鋼管 (○ PA ○ PB) ○ ポリ粉体ライニング鋼管 (PD)  
ロ) 土間配管用 (厨房、浴室等のシンダー内含む) ○ ビニル管 (JIS K-6742) (○ VP ○ H1VP)

○ ステンレス鋼管 (SUS316)  
○ 塩ビライニング鋼管 (VD) ○ 架橋ポリエチレン管  
○ ポリ粉体ライニング鋼管 (PD) ○ 水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管

化粧ケーシング (○ 合成樹脂製) ○ アルミ合金製  
伸縮式不凍給水栓とし、ボックスはステンレス製 (約200×200×150H) で継ぎきとする。  
イ) 水道直結部分 ○ JIS又はJV10K  
ロ) その他の部分 ○ JIS又はJV5K ○ JIS又はJV10K

○ ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。  
イ) 屋内 (○ 一般水栓 ○ 耐寒水栓) 屋外 (○ 耐寒水栓 ○ 一般水栓)  
ロ) 湯沸室、台所、厨房用水栓は泡沫式とする。 耐寒水栓はJWWAの認証品とする。  
イ) 一般敷地内 (0.6 m以上) ロ) 敷地内車両道路 (0.75 m以上)  
ハ) 公道部分 (○ 水道事業者及び道路管理者規定による)

イ) 量水器樹内の保温を行う。  
ロ) 屋外露出管 (弁、フランジを含む) は、標準仕様書第2編 (表2.3.5 ●3・(ハ)) とし厚さは呼び径25mm以下は50mm、呼び径32mm以上は40mmとする。  
イ) 呼び径60SU以下 一般配管用ステンレス鋼管継手性能基準 (SAS322) を満足する継手  
ロ) 呼び径75SU以上 ○ 配管用鋼 (板) 製突合せ溶接式管継手 ○ ハウジング形管継手  
○ 管端つば出しステンレス鋼管継手

給水管の最小口径は20mmとする。ただし、器具接続部分を除く。

イ) 屋内汚水配管 ロ) 屋内雑排水管  
○ 排水用塩ビライニング鋼管 ○ 排水用鉛管 ○ ビニル管 (VP)  
○ 耐火二層管 (VP) ○ ビニル管 (VP) ○ 耐火二層管 (VP)

ハ) 屋外汚水、雑排水管 ニ) 通気管  
○ ビニル管 (RF-VP) (※2) ○ ビニル管 (VP)  
○ ビニル管 (VU) ○ 耐火二層管 (VP)

ホ) ポンプアップ排水管 ○ ビニル管 (VP)  
図示の位置に取り付ける。  
別途流しのトラップは別途とし、立管は本工事 (接続配管はビニル管 (RF-VP) (※2) でもよい) とする。  
(※2: グリーン購入法における判断基準を満たすもの)

○ 架橋ポリエチレン管 ○ 耐熱性塩ビライニング鋼管 ○ ステンレス鋼管 (SUS316)  
給水設備の当該事項による。  
厚さ0.5mm以上のステンレス鋼板製とする。  
湯沸器の給排気筒 (二重管) のいんべい部保温を行う。  
(保温の種別は標準仕様書第2編表3.1.5表2.3.5のh・(イ)・X とする。)

イ) 一般 ロ) 地中埋設部  
○ 塩ビライニング鋼管 (VB) ○ 外面被覆鋼管 (VD)  
○ 圧力配管用炭素鋼管 (Sch40) ○ 外面被覆鋼管 (STPG-370 VS)  
○ ステンレス鋼管 (SUS304)

○ 屋内消火栓種別 ○ 屋内消火栓 ○ 易操作性1号消火栓 ○ 2号消火栓  
○ 屋内消火栓開閉弁 ○ JIS10K ○ JIS20K

外面被覆鋼管の呼び径100以下はねじ接合とする。  
イ) 屋外露出管については給水管に準ずる。  
ロ) 充水タンクの保温 ○ 施工しない ○ 施工する  
ハ) 消火配管の保温 屋内消火栓 ○ 施工しない ○ 施工する (消火ポンプ室内は保温施工とする。)

イ) 図示による (材質等は標準仕様書による)。ただし、機器の寸法は概略寸法とする。  
ロ) 燃焼機器は、(財) 日本ガス機器検査協会合格証書が貼付されたものとする。  
機器付属の制御盤は、製造者標準品とする。

イ) 一般 スプリンクラー ロ) 標準仕様書 ○ 施工する  
○ 配管用炭素鋼管 (白) 屋外露出 ○ ポリエチレン被覆鋼管  
○ ポリエチレン被覆鋼管 ビット、床下 ○ 配管用炭素鋼管 (白)  
○ 鋼管 ○ 塩化ビニル被覆鋼管  
○ ガス用ポリエチレン管

ガスメーター  
観メーターはガス事業者の貨与品とし、子メーターは買い取りとする。  
イ) ガスポンペ ○ 貨与品 ○ 買取り (○ 10kg ○ 20kg ○ 50kg)  
ロ) ガスメーター  
観メーターはガス事業者の貨与品とし、子メーターは買い取りとする。  
ハ) 集合装置 ○ 標準図 (施工70) による 6本組 ○ ガス事業者の貨与品とする。  
ニ) 転倒防止等 ○ 標準図 (施工71) (○ (a) ○ (b)) ○ 容器収納箱製造者規格品

○ ガス設備

- ガス漏れ警報器
- 埋設深さ
- その他

○ 工事範囲

特記事項

1. 本工事で使用する衛生器具及び空調、換気機器類は、メーカー標準仕様による。  
2. X19通りとY7~Y8通りが交差する南廊下に工事用仮設間仕切りを設置する。  
間仕切りの仕様は、平成31年度公共建築改修工事標準仕様書 (建築工事編) 2.3.2の規定で定めるB種相当とするが、施工場所側の下地 (支柱) はC種相当で良い。仮設扉及び塗装仕上げは不要とする。

○ 分離形 ○ 一体形 )  
外部出力端子 (○ 有り ○ 無し)  
イ) 一般敷地内 (0.45 m以上) ロ) 敷地内車両道路 (0.6 m以上)  
ハ) 公道部分 (○ ガス供給事業者及び道路管理者規定による)  
配管工事は、原則としてガス供給事業者の責任施工とする。  
供給事業者名: \_\_\_\_\_



鶴岡市立荘内病院

製図

照査

特記

製図

平成 年 月 日

工事名

新型コロナウイルス関連施設整備工事  
(専用病床個室陰圧化空調設備工事)

図面番号

縮尺

NON

図面名

特記仕様書2

M-02

【仕様書選択基準】（選択は○印を付けたものを適用する）

別表 1

(1) 塗装仕様

区分	選 択	塗 装 箇 所		仕 様		
		機 器 及 び 部 材	状 態			
共 通	○	保温外装（綿布）	屋内露出	(1) 目止め材料 1回	(2) 合成樹脂ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 1回	
	○	保温外装（亜鉛鉄板）	屋内露出 屋外露出	(1) エッチングプライマー（化学処理）1回 (JIS K 5633) 1回	(2) ジンクロート錆止め 1回 (JIS K 5627) 2種A	(3) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 1回
管 類	○	保温される金属下地（層管）	—	(1) 一般錆止めペイント 2回 (JIS K 5621) 1回	(2) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 1回	
	○	標管（亜鉛メッキ鋼を除外）	屋内露出	(1) 一般錆止めペイント 2回 (JIS K 5621) 1回	(2) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 1回 又はアルミニウムペイント 2回	
	○		屋外露出	(1) 船丹錆止めペイント 2回 (JIS K 5622) 2種	(2) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 2種 又はアルミニウムペイント 2回	
	○	亜鉛メッキ鋼管 （同用継手を含む）	屋内露出 屋外露出	(1) エッチングプライマー（化学処理）1回 (JIS K 5633) 1回	(2) ジンクロート錆止め 1回 (JIS K 5627) 2種A	(3) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 1回
風 道 類	○	亜鉛鉄板	屋内露出	(1) エッチングプライマー（化学処理）1回 (JIS K 5633) 1回	(2) ジンクロート錆止め 1回 (JIS K 5627) 2種A	(3) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 1回
	○		屋外露出	(1) エッチングプライマー（化学処理）1回 (JIS K 5633) 1回	(2) 船酸カルシウム錆止め 1回 (JIS K 5629) 2種	(3) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 2種
	○	保温（保温下地）	—	(1) 耐熱錆止めペイント 2回 (400℃)		
	○	普通鋼板	屋内露出	(1) 一般錆止めペイント 2回 (JIS K 5621) 1回	(2) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 1回	
	○	吹出口内面	—	(1) OP黒つや消し 2回 (JIS K 5516) 1回		
そ の 他	○	支持金物及び架台類 （亜鉛メッキを施した面を除く）	屋外露出	(1) 船丹錆止めペイント 2回 (JIS K 5622) 2種	(2) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 2種	
	○		屋内露出	(1) 一般錆止めペイント 2回 (JIS K 5621) 1回	(2) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 1回	
	○	ネジ切り鉄面	—	(1) 船丹錆止めペイント 2回 (JIS K 5622) 2種		
	○	送風機ポンプ類補修	屋内露出	(1) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 1回		
	○		屋外露出	(1) 合成樹脂塗合ペイント(OP) 2回 (JIS K 5516) 2種		

注1. 塗装を施す箇所ごしらは、共通仕様書2、3、9表による。

(2) 文字書き及び標示札取付仕様

機 別	選 択	塗 装 箇 所	仕 様
文字書き	○	各機器、装置類、水槽類	○名 称 ○容 量（能力） ○系 統 名
		各室内外露出配管及び風道	○種 別 ○方向表示（矢印） ○機 別 色
表示札	○	各室内外の機器類及び配管類	○閉開表示 ○系 統 名 ○操作方法
表示ラベル	○	DS及びPS用油樋口内部配管及び風道 天井油樋口（装置）	○種 別 ○方向表示（矢印）

注1. 上記のほか監督員の指示による。

(3) 防錆仕様

区分	選 択	防 錆 箇 所		仕 様		
		機 器 及 び 部 材	状 態			
防 錆	○	合成樹脂等で外面を被覆された部分を除く鋼管類及び給管	土中内 コンクリート内	(1) プラスチックテープ(0.4mm厚) (JIS Z 1901) 1/2重ね1回巻（ハーフラップ）		
	○	同上及び排水用鋼管を除く鋼管類 （保し、亜鉛メッキ鋼管を除く）	土中埋設	(1) ベトロラタム系ペースト	(2) ベトロラタム系防食テープ 1/2重ね1回巻（ハーフラップ）	(3) プラスチックテープ(0.4mm厚) (JIS Z 1901) 1/2重ね1回巻（ハーフラップ）
	○	排水用給管及び油配管 （外面被覆管を除く）	土中埋設	(1) 防水麻布	(2) アスファルトプライマー 2回	
	○	水槽用平架台	屋外露出	溶融亜鉛メッキ (JIS H 8641) 2種 50		
	○	屋外配管支持架台	屋外露出	溶融亜鉛メッキ (JIS H 8641) 2種 35		

注1. 床下、暗室内の給管は排水用給管及び油配管（土中埋設）の項に準ずる。

別表 2  
保温・防露仕様

区 分	選 択	保 温 ・ 防 露 箇 所		保 温 材	厚 (mm)	仕 様				
						(1) 保 温 筒	(2) 鉄 線	(3) 原 紙	(4) 綿 布	
給水管	○	屋内露出、一般居室、廊下	—	グラスウール (JIS A 9505)	15 <sup>A</sup> ~80 <sup>A</sup> 20mm	(1) 保 温 筒	(2) 鉄 線	(3) 原 紙	(4) 綿 布	
		天井内、P.S内、空腔壁内	—	ロックウール (JIS A 9504)	100 <sup>A</sup> ~150 <sup>A</sup> 25mm	(1) アルミガラスクロス付保温筒	(2) 亀甲金網			
排水 ドレン管	○	床下暗室内 （排水管を除く）	—	—	200 <sup>A</sup> 40mm	(1) アルミガラスクロス付保温筒	(2) ビニル被覆 亀甲金網			
		機械室・書庫・倉庫・共同溝	—	—	250 <sup>A</sup> 以上 50mm	(1) 保 温 筒	(2) 鉄 線	(3) アルミガラス クロス付化粧原紙		
温水管	○	屋外露出及び浴室、厨房 多湿箇所（露出） 厨房の天井内は含まない	—	—	ロックウールは 40mm	(1) 保 温 筒	(2) 鉄 線	(3) アルミガラス クロス付化粧原紙	(4) ステンレス鋼板 (0.3mm)	
		—	—	—	—	(1) 保 温 筒	(2) 鉄 線	(3) ポリエチレン フィルム	(4) ステンレス鋼板 (0.3mm)	
給水管 消火管	○	屋外露出及び多湿箇所（露出）	—	ポリイソフォーム (JIS A 9511)	15 <sup>A</sup> ~150 <sup>A</sup> 20mm 200 <sup>A</sup> ~ 30mm	(1) 保 温 筒	(2) 粘着テープ	(3) ポリエチレン フィルム	(4) ステンレス鋼板 (0.3mm)	
		屋内露出 一般居室、廊下	—	ロックウール (JIS A 9504)	15 <sup>A</sup> ~25 <sup>A</sup> 30mm	(1) 保 温 筒	(2) 鉄 線	(3) ポリエチレン フィルム (高気管除く)	(4) 原 紙	(5) 綿 布
冷水管	○	機械室・書庫 倉庫・共同溝	—	グラスウール (JIS A 9505)	32 <sup>A</sup> ~200 <sup>A</sup> 40mm 250 <sup>A</sup> 以上 50mm	(1) 保 温 筒	(2) 鉄 線	(3) ポリエチレン フィルム (高気管除く)	(4) アルミガラス クロス付化粧原紙	
		天井内、P.S内、空腔壁内	—	—	—	(1) アルミガラスクロス及び ポリエチレンフィルム付保温筒	(2) 亀甲金網	(蒸気管はポリエチ レンフィルム無し)		
		床下暗室内	—	—	—	(1) アルミガラスクロス及び ポリエチレンフィルム付保温筒	(2) 亀甲金網	(蒸気管はポリエチ レンフィルム無し)		
		屋外露出及び浴室、厨房 多湿箇所（露出） 厨房の天井内は含まない	—	—	—	(1) 保 温 筒	(2) 鉄 線	(3) ポリエチレン フィルム	(4) ステンレス鋼板 (0.3mm)	
蒸気管	○	屋外露出及び浴室、厨房 多湿箇所（露出） 厨房の天井内は含まない	—	ロックウール (JIS A 9504)	65 <sup>A</sup> ~150 <sup>A</sup> 40mm 200 <sup>A</sup> 以上 50mm	(1) 保 温 筒	(2) 鉄 線	(3) ポリエチレン フィルム	(4) ステンレス鋼板 (0.3mm)	
		—	—	—	—	(1) 保 温 筒	(2) 鉄 線	(3) カラー亜鉛鉄板		
		—	—	—	—	(1) 保 温 筒	(2) アルミガラス クロス化粧保温板	(3) アルミガラス クロス粘着テープ		
		—	—	—	—	(1) 保 温 筒	(2) アルミガラス クロス化粧保温板	(3) アルミガラス クロス粘着テープ		
矩形風道	○	屋内露出 一般居室、廊下	—	ロックウール (JIS A 9504)	50mm	(1) 鉄	(2) 保温板(2号)	(3) カラー亜鉛鉄板		
		屋内露出 機械室 書庫・倉庫	—	グラスウール (JIS A 9505)	50mm	(1) 鉄	(2) アルミガラス クロス化粧保温板	(3) アルミガラス クロス粘着テープ		
		屋内インベ イダクトシャフト内	—	—	25mm	(1) 鉄	(2) アルミガラス クロス化粧 波形保温板	(3) アルミガラス クロス粘着テープ	(4) 亀甲金網	フランジ部は 重ね巻き無しとする
		屋外露出	—	—	50mm	(1) 鉄	(2) アルミガラス クロス保温板	(3) アスファルト ルーフィング	(4) 鉄 線	(5) ステンレス鋼板 (0.3mm)
		多湿箇所（露出） （厨房・天井内は含まない）	—	—	50mm	(1) 鉄	(2) アルミガラス クロス保温板	(3) アスファルト ルーフィング	(4) 鉄 線	(5) ステンレス鋼板 (0.3mm)
円形風道	○	屋内露出 一般居室、廊下	—	ロックウール (JIS A 9504)	50mm	(1) 保温帯(1号)	(2) 保温帯(2号)	(3) カラー亜鉛鉄板		
		屋内露出 機械室 書庫・倉庫	—	グラスウール (JIS A 9505)	50mm	(1) アルミガラス クロス化粧 波形保温板	(2) アルミガラス クロス粘着テープ	(3) アルミガラス クロス付化粧原紙		
		屋内インベ イダクトシャフト内	—	—	25mm	(1) アルミガラス クロス化粧 波形保温板	(2) アルミガラス クロス粘着テープ	(3) 亀甲金網		
		屋外露出	—	—	50mm	(1) 保 温 帯	(2) アルミガラス クロス保温板	(3) アスファルト ルーフィング	(4) 鉄 線	(5) ステンレス鋼板 (0.3mm)
		多湿箇所（露出） （厨房・天井内は含まない）	—	—	50mm	(1) 保 温 帯	(2) アルミガラス クロス保温板	(3) アスファルト ルーフィング	(4) 鉄 線	(5) ステンレス鋼板 (0.3mm)
排煙風道	○	屋内露出 矩形	—	ロックウール (JIS A 9504)	25mm	(1) 鉄	(2) アルミガラス クロス化粧保温帯	(3) アルミガラス クロス粘着テープ	(4) 亀甲金網	
		屋内露出 円形	—	—	25mm	(1) アルミガラス クロス化粧保温帯	(2) アルミガラス クロス粘着テープ	(3) 亀甲金網		
煙導	○	機械室	—	ロックウール (JIS A 9504)	75mm	(1) ブラケット (1号)	(2) 鉄 線	(3) カラー鉄板 (0.35mm)		
消音内貼	○	空調機廻り チャンパー類	—	グラスウール (JIS A 9505)	50mm	(1) 鉄	(2) エマルジョン系 接着剤	(3) 保温板(2号) (2号 40K)	(4) ガラスクロス	(5) 銅亀甲金網
		吹出・吸込ボックス・エルボ類	—	—	25mm	(1) 鉄	(2) エマルジョン系 接着剤	(3) 保温板(2号) (2号 40K)	(4) ガラスクロス	
弁 類 給 水	○	屋内露出	—	ポリイソフォーム (JIS A 9511)	65 <sup>A</sup> ~150 <sup>A</sup> 20mm 200 <sup>A</sup> ~300 <sup>A</sup> 30mm	(1) 成形カバー	(2) 粘着テープ	(3) ポリエチレン フィルム	(4) カラー亜鉛鉄板	
		屋外露出	—	グラスウール (JIS A 9505)	65 <sup>A</sup> ~200 <sup>A</sup> 40mm 200 <sup>A</sup> ~ 50mm	(1) 成形カバー	(2) 粘着テープ	(3) ポリエチレン フィルム	(4) ステンレス鋼板 (0.3mm)	
弁 類 冷 温 水 冷 水 温 水	○	屋内露出	—	グラスウール (JIS A 9505)	65 <sup>A</sup> ~200 <sup>A</sup> 40mm 250 <sup>A</sup> ~ 50mm	(1) 保温板・帯 (2号、4号)	(2) ポリエチレン フィルム	(3) カラー亜鉛鉄板		
		屋外露出	—	—	—	(1) 保温板・帯 (2号、4号)	(2) ポリエチレン フィルム	(3) ステンレス鋼板		
機 器 類	○	冷凍機	—	—	25mm	(1) 鉄	(2) 保温帯(2号)	(3) アスファルト ルーフィング	(4) 鉄 線	(5) ステンレス鋼板 (冷凍機・メカ仕様)
		冷凍水ヘッダー 冷水タンク	—	—	50mm	(1) ブラケット (1号)	(2) 鉄 線	(3) ステンレス鋼板 (0.3mm)	(4) 鋼栓 又は亀甲金網	(5) ステンレス鋼板 (0.3mm)
		ボイラ	—	—	75mm	(1) 鉄	(2) 保温帯(2号)	(3) 鉄 線	(4) 鋼栓 又は亀甲金網	(5) ステンレス鋼板 (0.3mm)
		熱交換器 還水タンク 膨張タンク 温水タンク 温水ヘッダー 蒸気ヘッダー	屋内露出 屋外露出	—	—	50mm 25mm	(1) 鉄	(2) 保温板・帯 (2号)	(3) 鉄 線	(4) 鋼栓 又は亀甲金網

注1. 泡消火設備の配管の保温、防露仕様は消火管に準ずる。

注2 (1) 給湯・温水・蒸気管を除くグラスウール保温筒仕様の場合は、ポリエチレンフォーム成形品を使用することができる。

(2) 綿布・防水用布・ガラスクロス・アルミガラスクロスなどテープ状の場合の重なり幅は15mm以上とし、その他原紙・アスファルトフェルト・アスファルトルーフィングなどの重なり幅は30mm以上とする。

(3) 空腔中配管の場合は、アルミガラスクロスの外装材を取りやめる。

(4) 冷水のドレン管保温は、排水管の項による。

(5) 冷蔵管の保温は、凍結及びガス管とも行う。

口径40mm未満の冷蔵管は、ポリエチレンフォームによる被覆網管とすることができる。補助材は不要。

ただし、口径20mm未満の屋内及び屋外露出管は、保温化ケース内に納めることができる。

尚、屋外の場合は、ケース径目をシールする。

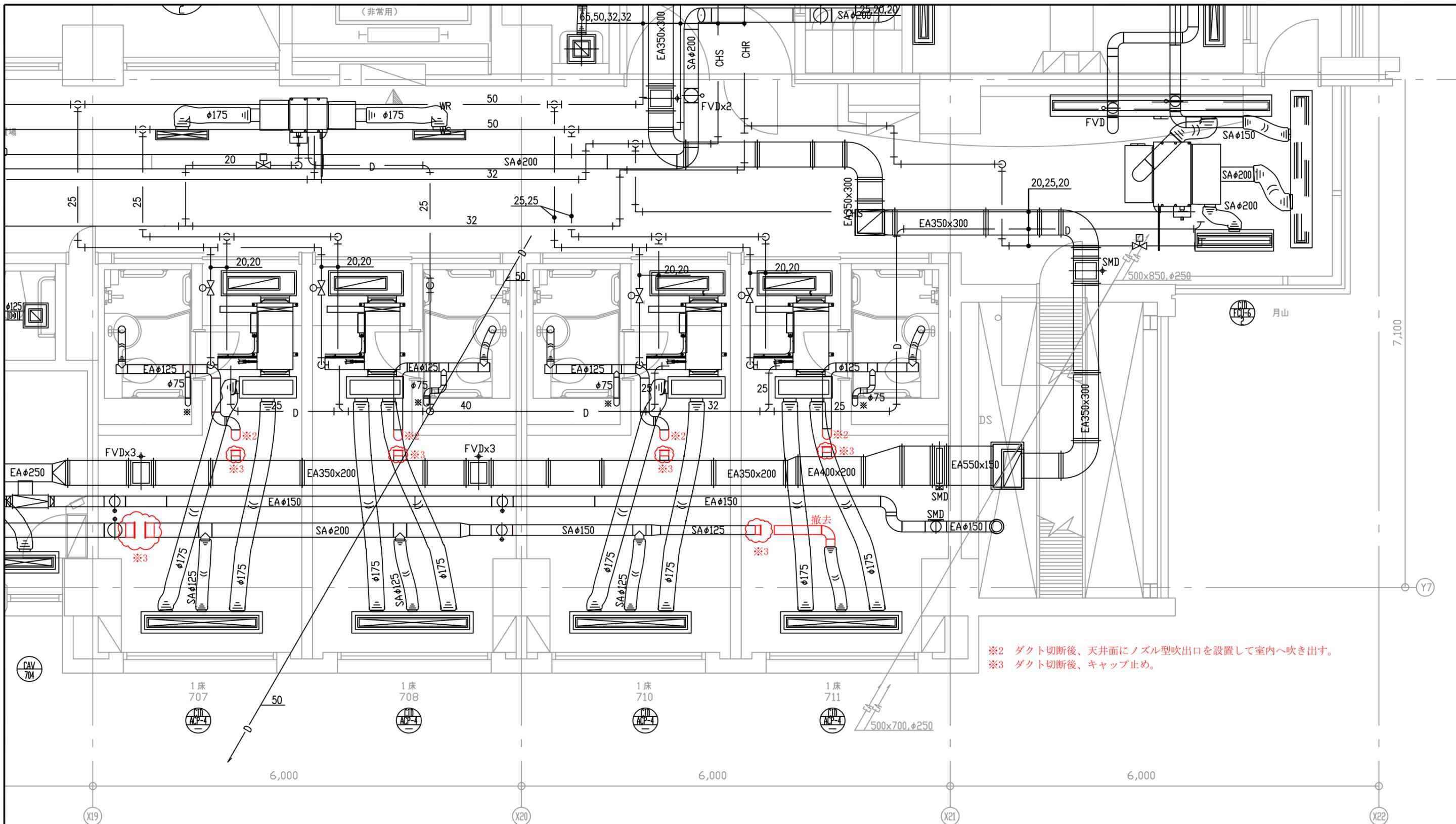
(7) 建築基準法で定められた耐火構造の防火区画を貫通する配管の保温は、その貫通部分をロックウール保温材で行う。

(8) グラスウール保温筒又はロックウール保温筒及び保温筒の使用面積は、ロックウール保温筒又はブラケットを使用してもよい。

(9) 60A以下の弁類は各々敷設する管の区分の項に準ずる。

(10) 65A以上の弁類の保温外装はワンタッチ着脱可能とする。

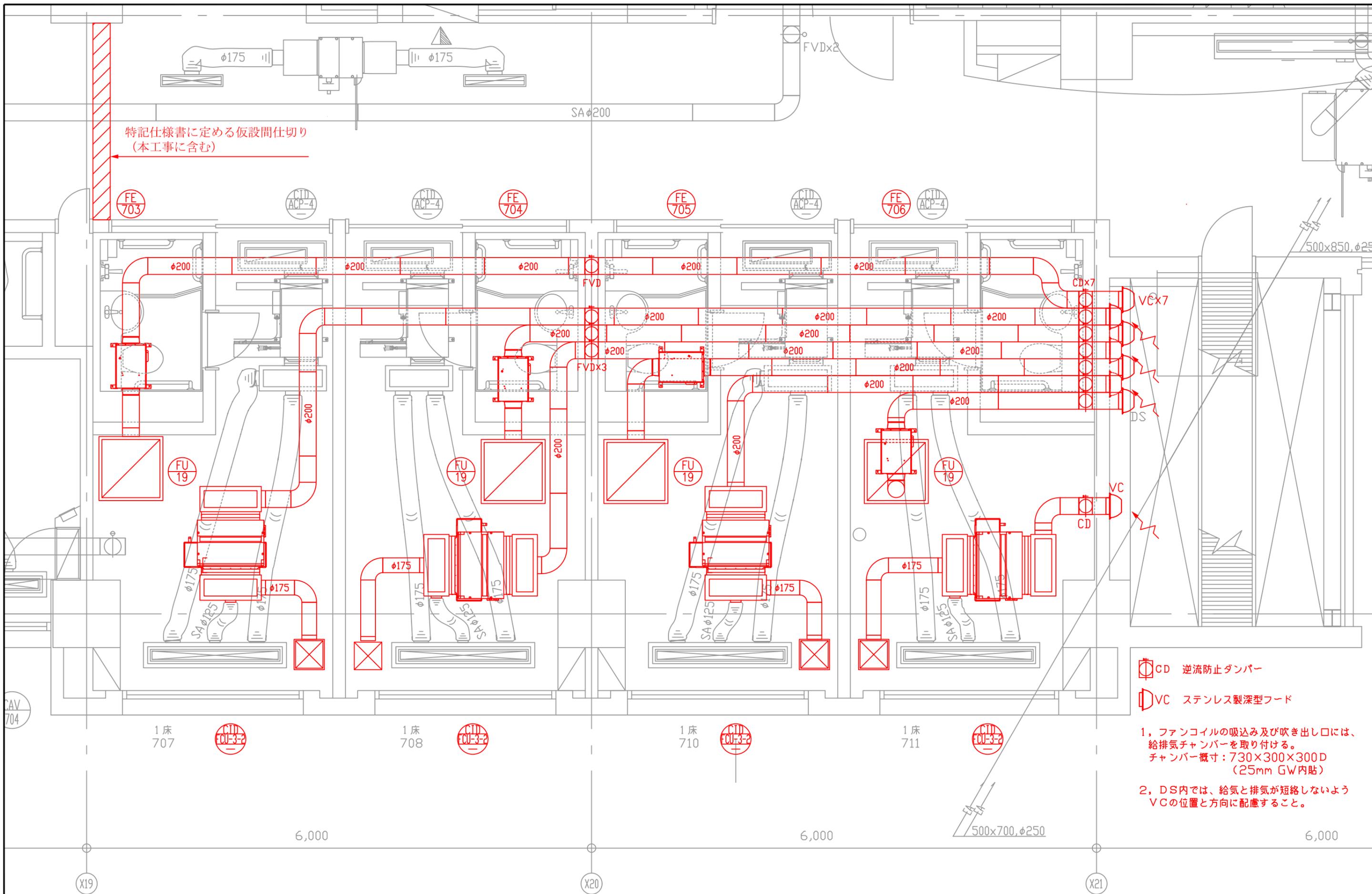




※2 ダクト切断後、天井面にノズル型吹出口を設置して室内へ吹き出す。  
 ※3 ダクト切断後、キャップ止め。

- 706～711号室に係る既設空調設備撤去工事明細
- 1, 各室トイレから排気ダクトに至るスパイラルダクトφ125一式 (※蓄尿ユニットの排気ダクトを除く)
  - 2, 東入院棟外調機 (AC-48) から707～711号室に至る給気ダクトと付属するFVD等一式
  - 3, 撤去したダクトと機器及び他のダクトとの接続部分は、適当な部材で塞ぐこと
  - 4, その他、上記撤去工事に関連する工事一式

 鶴岡市立荘内病院	製図	照査	特記	製図	平成 年 月 日	工事名	新型コロナウイルス関連施設整備工事 (専用病床個室陰圧化空調設備工事)	図面番号
				縮尺	NON	図面名	既設空調ダクト改修図	M-05



CD 逆流防止ダンパー

VC ステンレス製深型フード

- 1, ファンコイルの吸込み及び吹き出し口には、給排気チャンバーを取り付ける。  
チャンバー概寸：730×300×300D  
(25mm GW内貼)
- 2, DS内では、給気と排気が短絡しないようVCの位置と方向に配慮すること。



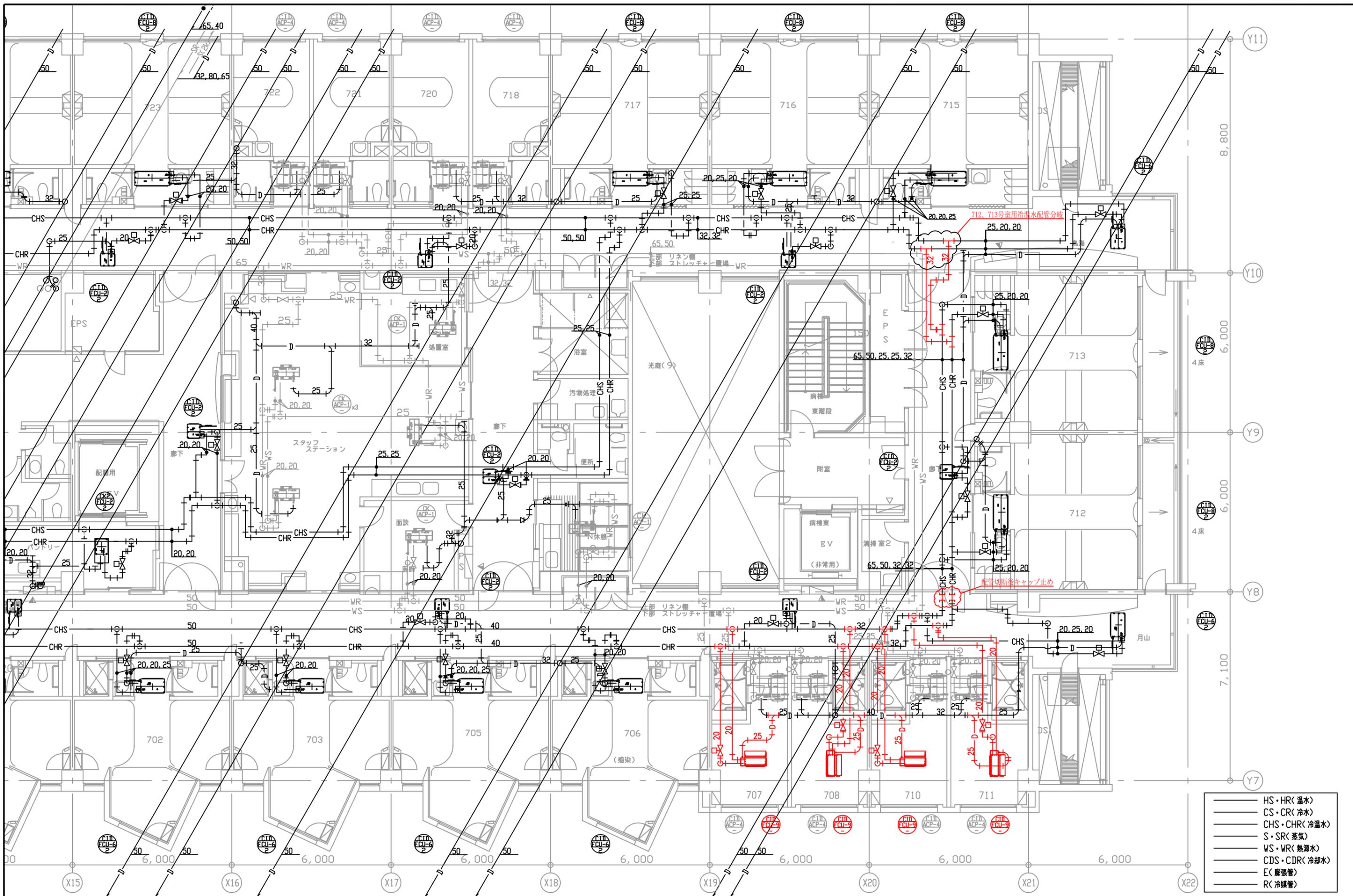
鶴岡市立荘内病院

製図	照査

特記 図中、朱書きの部分进行今回の工事範囲とする。  
配管が壁等を貫通する際には、防災計画平面図(参考図)に基づき適切な処理を施すこと。

製図	平成 年 月 日	工事名
縮尺	1/40	図面名

新型コロナウイルス関連施設整備工事 (専用病床個室陰圧化空調設備工事)	図面番号
専用病床空調ダクト平面図	M-06



712、713号室用冷温水配管分岐

配管切断後キャップ止め

- HS・HR(温水)
- CS・CR(冷水)
- CHS・CHR(冷温水)
- S・SR(蒸気)
- WS・WR(熱海水)
- CDS・CDR(冷却水)
- E(膨張管)
- R(冷媒管)



鶴岡市立荘内病院

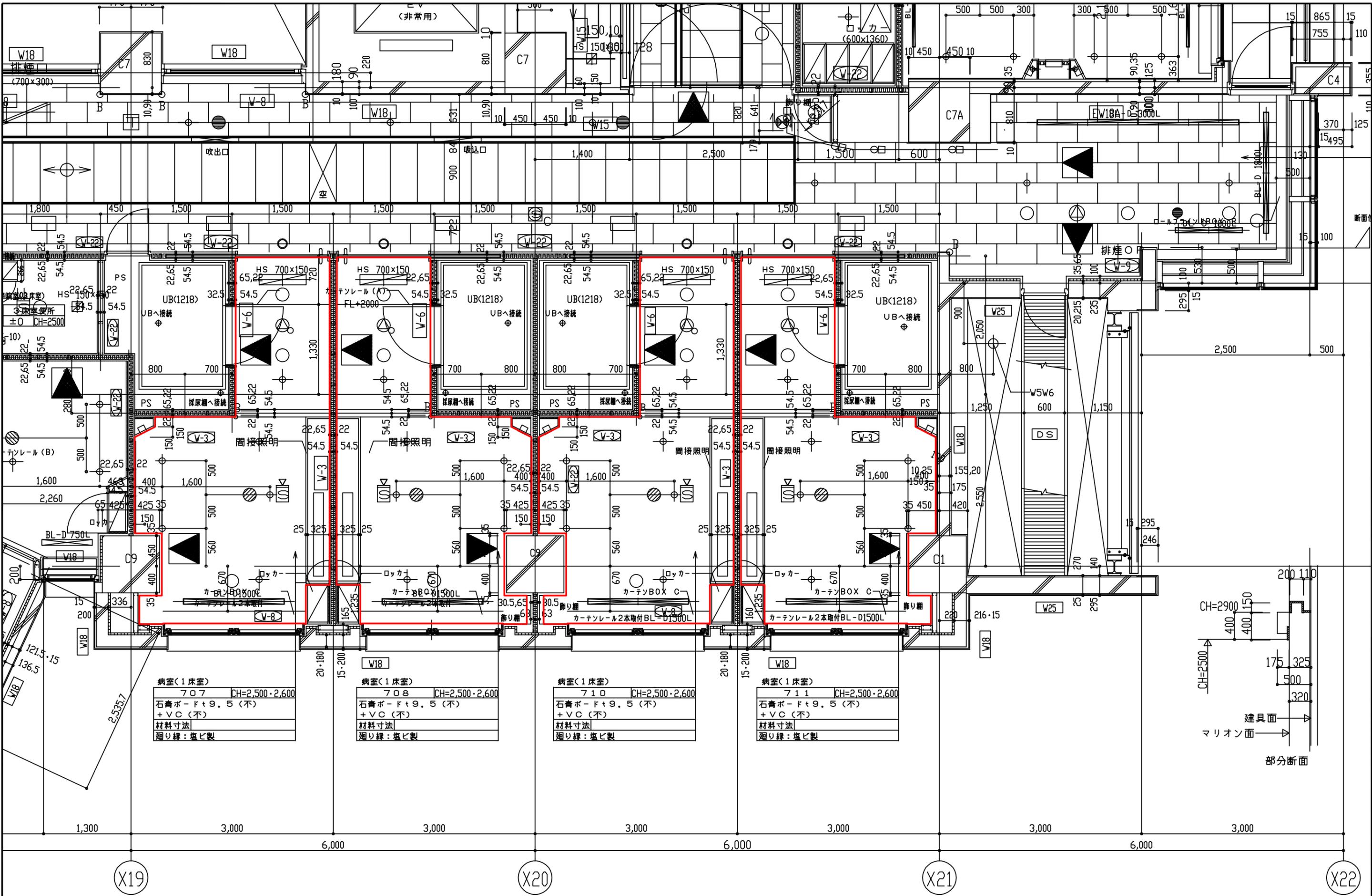
製図 照査

特記 図中、朱書きの部分进行の工事範囲とする。  
配管が壁等を貫通する際には、防災計画平面図(参考図)に基づき適切な処理を施すこと。

製図 平成年月日 工事名  
縮尺 1/125 図面名

新型コロナウイルス関連施設整備工事  
(専用病床個室陰圧化空調設備工事)  
専用病床空調配管平面図

図面番号  
M-07

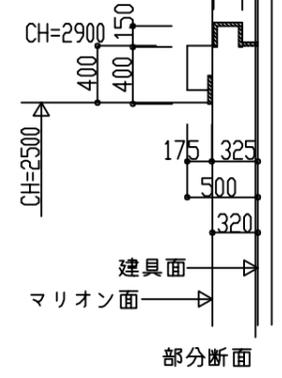


病室(1床室)  
707 CH=2,500・2,600  
石膏ボードt9.5(不)  
+VC(不)  
材料寸法  
廻り縁:塩ビ製

病室(1床室)  
708 CH=2,500・2,600  
石膏ボードt9.5(不)  
+VC(不)  
材料寸法  
廻り縁:塩ビ製

病室(1床室)  
710 CH=2,500・2,600  
石膏ボードt9.5(不)  
+VC(不)  
材料寸法  
廻り縁:塩ビ製

病室(1床室)  
711 CH=2,500・2,600  
石膏ボードt9.5(不)  
+VC(不)  
材料寸法  
廻り縁:塩ビ製



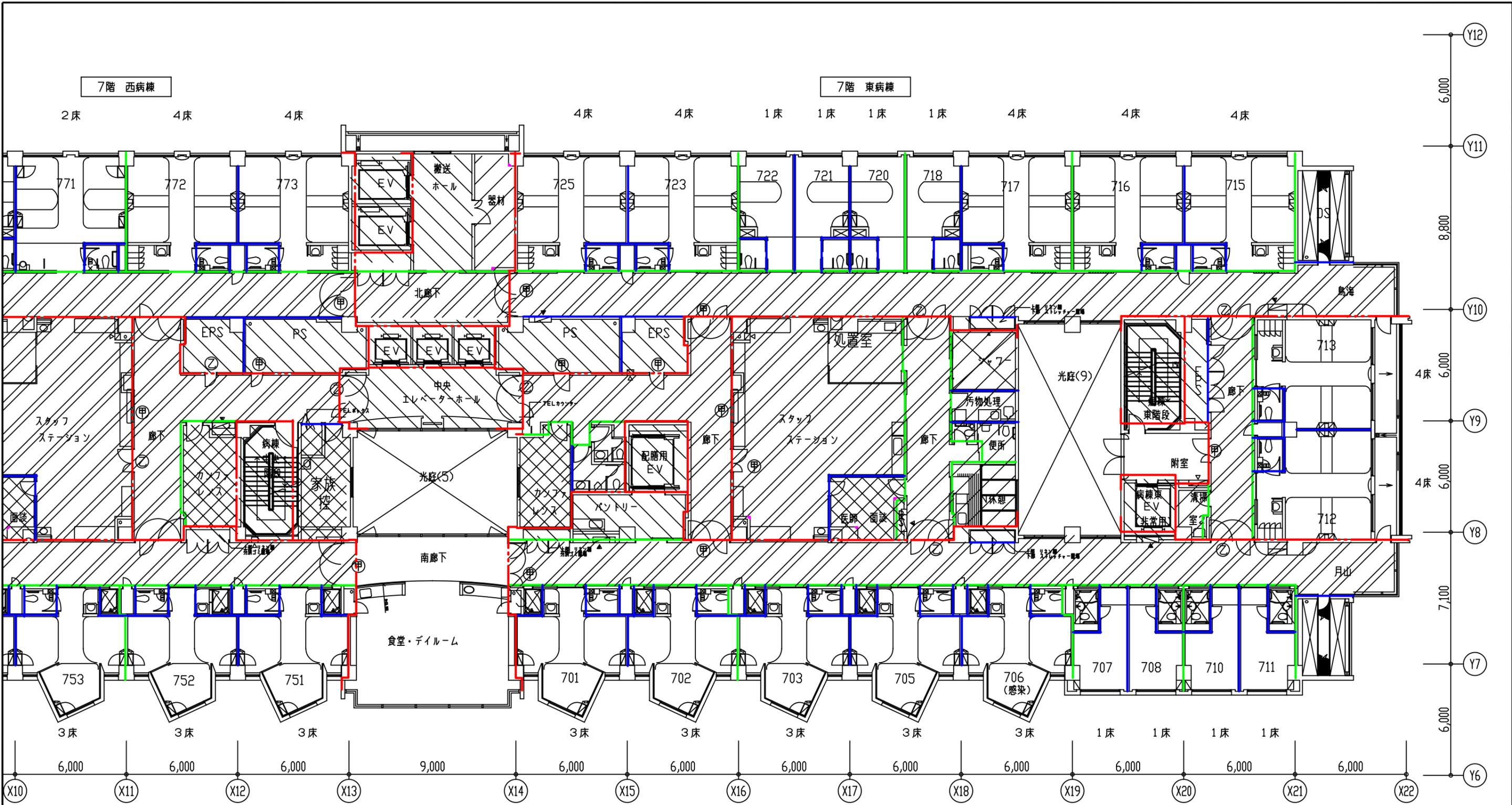
鶴岡市立荘内病院

製図	照査

特記  
本工事における機器等の設置に先だち、朱線で囲まれた部分の天井を全て解体し、設置後に復旧する。  
なお、天井の解体復旧及び電気設備や消防設備等の関連する器具の取り外し及び再取り付けは別途とする。

製図	平成 年 月 日	工事名
縮尺	1/50	図面名

新型コロナウイルス関連施設整備工事 (専用病床個室陰圧化空調設備工事)	図面番号
既設入院室天井伏図 (参考)	M-08

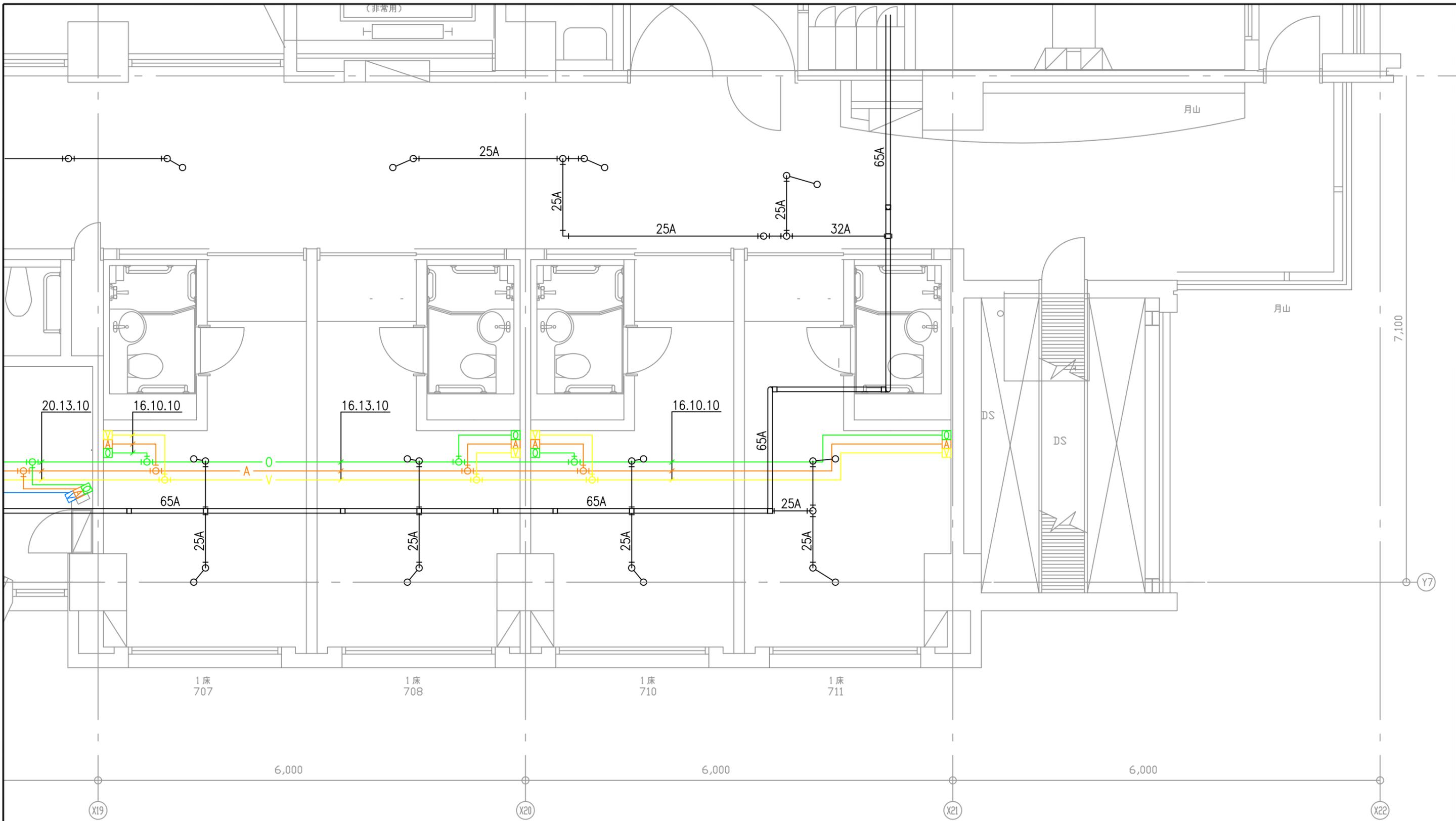


**区画別凡例**

<span style="color: red;">—</span>	甲防 面積区画(防煙壁兼用) 縦穴区画
<span style="color: magenta;">—</span>	乙防ゾーン区画(防煙壁兼用)
<span style="color: green;">—</span>	主要周仕切(防煙壁兼用)
<span style="color: cyan;">—</span>	防煙壁(垂壁)
<span style="color: blue;">—</span>	防煙区画

**ハッチング別凡例**

・内装不燃, 準不燃+防火戸 1436-四-ハ-(1)		・階段室, ELVシャフト等 冷126条2-1-3	
・100㎡未満の防煙区画 1436-四-ハ-(2)		・100㎡以下の居室・室の防火区画 1436-四-ニ	
・100㎡以内の防火区画 1436-四-ハ-(3)		・機械排煙	
・100㎡以下の不燃仕上 1436-四-ハ-(4)		・自然排煙	



スプリンクラー設備凡例

- 配管用炭素鋼鋼管 (スプリンクラー設備配管)
- スプリンクラーヘッド72℃ (1種型警戒範囲2.5m)

医療ガス設備凡例

- 酸素配管 (別紙仕様書参照)
- 治療用空気配管 (同上)
- 吸引配管 (同上)
- 酸素アウトレット
- 治療用空気アウトレット
- 吸引アウトレット

707~711号室に係る既設スプリンクラー設備、医療ガス設備配管移設工事について

本工事の施工に際し、天井いんべい部に設置したスプリンクラー及び医療ガス配管の移設を要する場合は別途とする。その場合は、下記に留意し発注者と十分な打ち合わせを行って施工範囲と施工方法を決定する。

- 1, 移設工事は、新設する機器を天井内に収納するためのスペース確保を目的とする。
- 2, 移設に際しては、運用中の他入院室への影響がないよう発注者と事前に十分な打ち合わせを行うこと。
- 3, 移設の前後に実施するスプリンクラー設備の仕切弁操作及び医療ガス設備のシャットオフバルブの操作を含むこと。
- 4, 移設する配管の経路は、既設設備の能力に影響を与えない範囲で策定すること。
- 5, 移設前には発注者の立ち合いをうけることとし、移設後には機能確認を含めた立ち合い検査を行う。



鶴岡市立荘内病院

製図

照査

特記

製図

平成 年 月 日

工事名

新型コロナウイルス関連施設整備工事  
(専用病床個室陰圧化空調設備工事)

図面番号

縮尺

1/50

図面名

専用病床既設医療ガス及びスプリンクラー配管現況図

M-10